

しいのき



井上 円了 (1858-1919)



後藤 慶二 (1883-1919)

百年の志を引き継ぐ

前館長 比田井 克仁

今から百余年前、大正8年(1919)、中野にかかわる2人の人物が、志なかばにして、旅立ちました。

2月3日、「スペイン風邪」の第3波感染によって、天才建築家後藤慶二(写真右)が35才で亡くなりました。後藤は豊多摩監獄の設計や建築学会常議員といった本務以外に、短歌誌「ホトトギス」同人や、画家として国民美術協会理事、朝鮮総督府嘱託として古墳調査に従事するなど、驚くべき多才な活躍をした人でした。後藤の建築家の仕事として唯一残されているのが「旧豊多摩監獄表門」です。

同年6月6日、中国大連で井上円了(写真左)が61才で亡くなりました。全身全霊をささげた「哲学堂」の建設と維持のための講演旅行中のことでした。「哲学堂」は運動を通じた施設部分が未完成の状態、その遺志はご遺族が継ぎ、児童遊園・テニスコート・野球場を建設し現在の形となったのです。

この2人の活躍した明治大正期は、急激に欧米化していく反面、古きもの、伝統的なものが失われていくことに言いようもない不安が漂った時代で、改めて日本というものを見直す潮流が、人びとの心の中に生まれた頃でした。その点では、円了は精神面において、後藤は技術や意匠面において、これを実現しようと取り組み、一方は「哲学堂公園」、もう一方は「旧豊多摩監獄」に結実したのです。

「哲学堂公園」は、円了没後百周年にあたる令和2年3月10日に国の名勝に、「旧豊多摩監獄表門」は、後藤没後102年にあたる令和3年6月4日に中野区有形文化財に指定されました。

これらを、後世へと継承していくことが、2人の先人から課せられたことではないかと思えます。

文化財よもやま話

～フィルムデータの消滅と再生問題～

写真ネガ、カセットテープ、ビデオテープや16mmフィルムは、多くの人が一度は目にしたり、使用した経験があるでしょう。これらのフィルムは、多くの貴重な映像、音声、画像を記録してきました。

フィルムデータは、保存方法を間違えると2度と再現できなくなる可能性も高いものです。フィルムの伸びや切断、湿度によるカビ問題、そして当館に昨年寄贈された東中野の結婚式場「日本閣」(2020年閉場)のフィルム資料でも発生しているのが、フィルムを構成するトリアセチルセルロース(TAC)が加水分解をおこし酢酸臭を生じる「ビネガーシンドローム」です。高温多湿になりやすい日本では、ビニールやプラスチック製容器、缶などに保存すると湿度が高まります。これらの資料は通気性のよい紙製の容器に入れ替え、涼しく湿度の低いところに保管することが必要です。

フィルムの変質だけでなく、再生機材そのものが急速に失われ、過去60年に作られた磁気テープの再生が2025年頃にはできなくなる「2025年問題」も近づいています。これを避けるために、デジタル化し長期保存する取り組みも徐々に増えていますが、問題そのものが認識されていなかったり、時間的、予算的にデジタル化が進んでいないところが多いのが実情ではないかと思われます。

物理的な資料保存だけでなく、フィルムデータの場合は、記録された内容を再生・確認して、利用できなければ意味がありません。再生不可能にならないうちに、デジタル保存することが早急に求められるところに来ているのではないのでしょうか。(北河)



日本閣のフィルム資料(一部抜粋)
(時計回りに) 16mmフィルム、カセットテープ、VHS

大地に眠る歴史

近世以降の「根切り溝」

前号の「大地に眠る歴史」では、区内の発掘調査で見られる溝のうち、古墳の周りに掘られる「周溝」を紹介しました。今回は、それよりも新しい時代、近世以降に掘られた溝を紹介します。

発掘調査では、重機などで近現代に盛られた土を剥がし、昔の人びとが生活していた頃の地面まで掘り下げます。その後、地面を綺麗に掃除すると、住居跡や土坑などの遺構があった場所は、後世の色の濃い土が落ちくぼんで入ることで、地面に黒いしみのように現れます。このしみの形や大きさ、入り込んでいる土の状態から、その遺構の種類や時代がある程度わかります。溝の場合、地面に帯状にしみが現れます。

溝にもいくつか種類があります。たとえば、人びとが通ることで地面がくぼんで作られた通路や、水が流れることにより作られた流路、家や田んぼの側に水を取り入れるための用水路などです。溝の断面の形も、U字型やV字型、逆台形など、用途や掘り方によってさまざまです。

では、写真の溝は何のための溝でしょうか？



写真は、江古田遺跡の第一次調査で見つかった溝状遺構の断面写真です。ひらがなの「へ」を上下逆さにしたように、溝の左側の壁は傾斜が急ですが、右側の壁は傾斜が緩やかです。

これは、「根切り溝」と呼ばれる溝であると考えられます。根切り溝は、近世以降に畑地と雑木林の境界に掘られた溝のことで、雑木林側の壁の傾斜を急に、畑地側の壁の傾斜を緩やかにすることで、畑地へ木の根が侵入するのを防ぐ効果があるとされます。区内の発掘調査でも、同様の溝がしばしば発見されます。もともと、このような溝の用途は判然としていませんでしたが、発掘調査に参加していた農家の方々の協力により、根切り溝であることがわかりました。地域の方々からの情報がなければ、今でもこの溝の用途はわからないままだったかもしれません。(比留間)

令和3年度 中野区指定文化財

旧豊多摩監獄表門

(中野区指定文化財：登録指定第122号)

令和3年度指定文化財について、中野区教育委員会は、中野区文化財保護審議会での審議を経て、「旧豊多摩監獄表門」(旧中野刑務所正門)を令和3年6月4日付けで中野区指定有形文化財に指定しましたので紹介いたします。

【旧豊多摩監獄表門】

■員数

1棟

■所在地

中野区新井三丁目37番
(住居表示)

■構造・形式

煉瓦造平屋・小屋組木造

■規模

東西約12.7m
南北約8.0m
高さ約8.7m

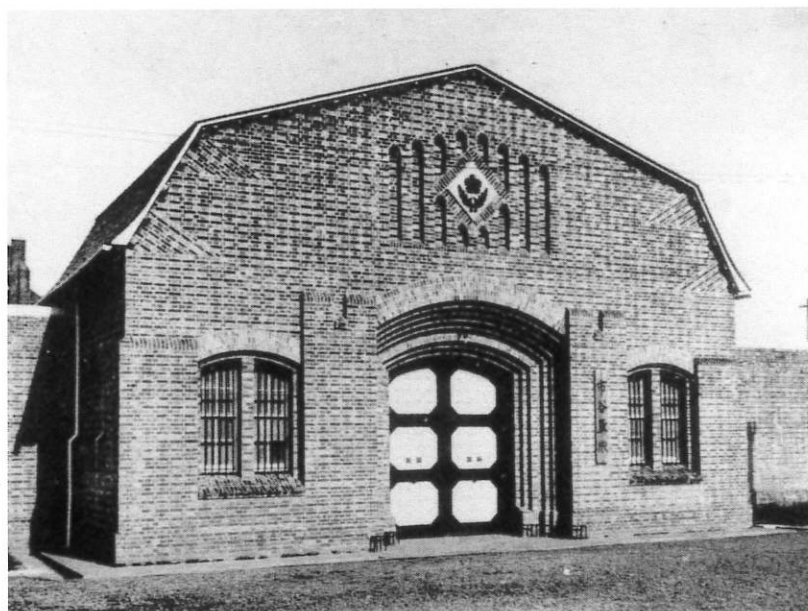


図1 竣工時の豊多摩監獄表門
竣工時にはまだ「市谷監獄」の札がかかっていた

■建築年代

大正4年(1915)

来歴

江戸時代の小伝馬町牢屋敷の流れを汲む市谷監獄が明治43年(1910)に現在地に移されて豊多摩監獄となり、その表門としてこの門は建造されました。旧豊多摩監獄は同年4月に起工し、大正4年(1915)3月に竣工しました。豊多摩監獄は豊多摩刑務所、中野刑務所と名称を変えましたが、昭和58年(1983)廃庁となり、関東大震災や戦災の被害を受けずにいた表門を残してすべて解体されました。敷地は法務省矯正研修所、財務省用地を経て、現在、中野区用地となっています。

設計者

豊多摩監獄は、司法省技師・後藤慶二（写真2）を工事主任として、横濱勉、山下啓次郎、久田喜一らが工事にあたりました。工事主任・後藤慶二（1883～1919）は、東京帝国大学工科大学建築学科を卒業後、司法省営繕課司法技師となり豊多摩監獄の設計を担当しました。若い頃より白馬会に属して洋画を学び、俳句雑誌「ホトトギス」同人として詩歌にも長じ、能・歌舞伎にも造詣の深い多才な建築家でした。建築史上、近代建築運動のキーパーソンの一人として評価されています。建築設計を芸術の域に導くために、構造と意匠の関係の考察を深め、当時、導入され始めた鉄筋コンクリート構造の研究を展開しました。この構造と意匠の追究は、その後の建築動向に大きな影響を与えました。しかし、35才で早逝したこともあり作品は少なく、表門は後藤の設計による唯一残されている建造物です。



写真2 設計者の後藤慶二

門の現状・外観

現在、表門は創建時の位置にそのまま保存されています。法務省矯正研修所建設の際に敷地全体に盛土が施されているため、門の床面は、現地表面よりも55cm低くなっています。

煉瓦は、長い面（長手）の段と短い面（小口）の段を交互に重ねていくイギリス積という方法で積まれています。南面・北面から見える、将棋の駒のように角張り、裾がスカートのように広がった腰折れ屋根が特徴的です。

創建時は門の東側と西側にそれぞれ煉瓦塀が伸び、刑務所の敷地全体を囲っていました。

平面形は東西に長い長方形で、南側から向かって右側に「元守衛室」、左側に「部屋」があり、中央通路からそれぞれの部屋へ出入りできるようになっています。中央通路の天井には漆喰が塗布されており、当時のシャンデリアがそのまま残っています（写真4）。なお、「元守衛室」の東側には新たな出入り口と円形の庇がついた受付が設けられました。



写真3 北側から見た旧豊多摩監獄表門
写真の左側に、「元守衛室」東側に設けられた
新たな出入り口と庇のついた受付が見える



写真4 中央通路天井のシャンデリア

門の意匠

【南面】

鉄格子のついたガラスの上げ下げ窓が、中央の通路を挟んで左右対称に配置されています。

入口上部は、内側に向かって煉瓦を半枚ずつずらして段状に積んだアーチ状のデザインになっており、入口の左右も同様に段状になっています（写真5）。

正面の上部には、縦方向に煉瓦半枚分を窪ませ、頂部を三角状にした溝状の装飾が8本デザインされており、中央には妻飾りとして記章を嵌め込むなど高度な煉瓦の積み方が見られます（写真6 記章は現在外されています）。腰折れ屋根も、垂木を支える部材である母屋鼻を並べたり、屈折する部分は煉瓦を斜めに積むなどの工夫が見られます。

また、扉は、鋸が打たれた鉄板の外枠の中に白色の木造の格子枠がはめ込まれています（写真7）。



写真5 旧豊多摩監獄表門南面入口



写真6 旧豊多摩監獄表門妻面の装飾

【北面】

北面の意匠は南面と大きく異なります。入口上部のアーチ状のデザインは同じですが、南面と比べてその段数は少なくなっています。また、入口の左右には段状の処理がなく、その代わりに入口を支えるように控え柱が設けられています（写真3）。

南面の妻面には記章や溝状の装飾がつけられていますが、北面は縦に細長い換気口が見られるのみです。

扉も装飾性のある南面のものと異なり、鉄格子のような扉になっています。

南面を表とすれば、北面は裏という役割の違いがデザインとして表現されています。

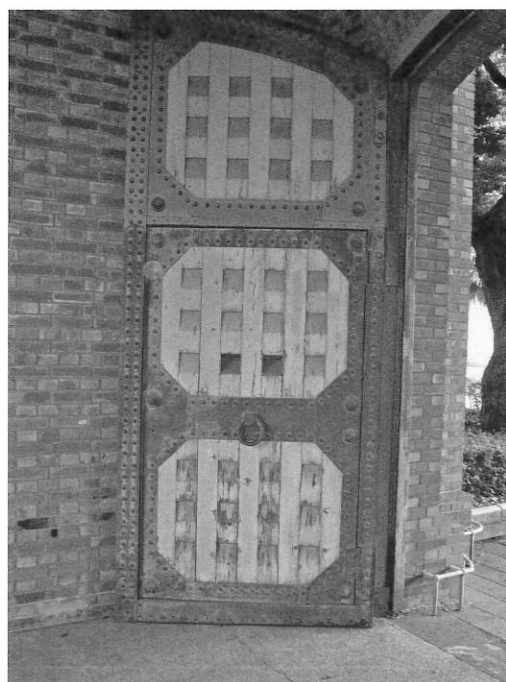


写真7 南面門扉

技術的な特徴

煉瓦間の目地の断面をかまぼこ型に成形する覆輪目地（ふくりんめじ）で仕上げられているのが特徴的です（写真8）。この覆輪目地は日本独自の化粧技術で、東京駅丸の内駅舎の復原の際には数少ない職人により再現されました。また、役物（やくもの）と呼ばれる特注の楔型に製作された煉瓦を用い、それらを交互に積み重ねるといった緻密な作業が施されています（写真8）。

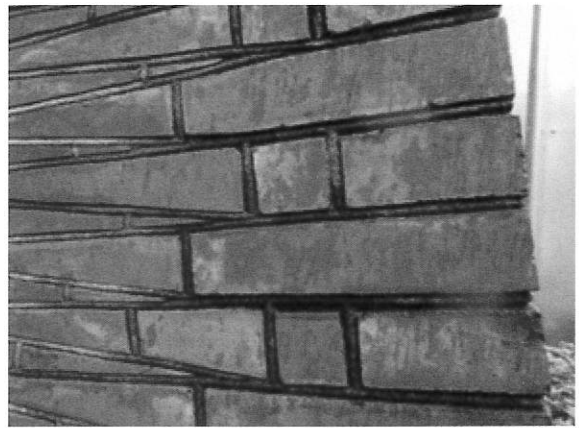


写真8 役物煉瓦（写真左）・覆輪目地

建築史上の位置づけ

建築が煉瓦造から鉄骨構造・鉄筋コンクリート構造へと変わっていくなか、建築家の芸術性をどう表すかということに取り組んだ後藤慶二が設計した建造物の中で、唯一現存しているという点で学術的価値が高く、また、煉瓦造の建築技術が最も発達した大正期の煉瓦建築の、現存する数少ない例としても貴重であり、日本の近代建築史上高く評価できます。

関連する歴史的要素

この門は、豊多摩監獄表門として建造されました。豊多摩監獄では受刑者の更生に重きを置き、行刑の近代化を推進する先駆的な役割を果たしました。

また、豊多摩監獄が移転してきた明治期後半から大正期にかけては、東京市内の人口の急激な増加に伴い、様々な施設が敷地の広い郊外へ移転してきた時期でもあります。中野にも、鉄道大隊や電信隊などの軍事施設や東京府立農事試験場、豊多摩監獄、東京市療養所、哲学堂公園などの大きな施設が造られました。しかし、これらのうち現存するのは豊多摩監獄表門と哲学堂公園のみです。このような点が歴史的付加価値を与えています。

指定すべき事由

旧豊多摩監獄表門は、大正期を代表する建築家後藤慶二の現存する唯一の作品です。西洋建築からモダニズム建築・現代建築へという日本近代建築史の流れの中で、西洋建築の模倣からの脱却を図り、新たな表現形式の模索がはじめられた時期の数少ない遺構であり、建築史学などにおける学術的価値が高い建造物です。

中野区の近代の歴史遺産としての希少価値も評価され、指定有形文化財として後世に残し伝えていくことが必要な文化財と言えます。

また、日本の近代におけるアイデンティティの発達を示す歴史遺産として、国名勝「哲学堂公園」とともに今後の有効活用が期待されます。

古文書つづり

そこに存在するのには理由がある

今年2021年は、日本における近代計量制度が確立したとされる「度量衡法」公布(1891年)から130年、計量単位のメートル法統一を定めた「度量衡法」改正(1921年)から100年という節目の年にあたります。それまで主流だった計量単位は、長さに尺、重さに貫の単位を基本とする「尺貫法」であり、明治初期まで有力だった計算方法は「和算」(日本に古くからあった数学)でした。かつての計量制度の歴史を振り返ったとき、ある資料に目が留まりました。『算法地方大成』(天保8年〔1837〕)という全5冊の和本資料です。

校閲者(著者ともされる)は和算学者として著名な長谷川寛(1782~1838年)で、構成は「租税之部」、「普請之部」、「量地之部」から成ります。租税では検地・石盛・小物成などの解説、普請では掛渡井・川除堤などの土木技術の図解、量地では計測器具の図解と計測法の解説といった内容が記されています。

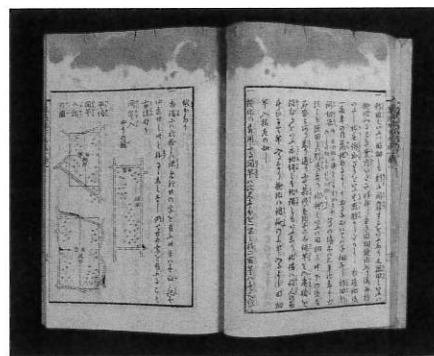
この資料はいわゆる「地方書」と呼ばれるもの

の一つです。地方書とは、近世地方支配のための規範書・総合手引書という性格をもったもので、地方役人・村役人の政務遂行には不可欠な文献でした。

そして近世の土地制度・年貢制度・土木普請工法などは全て和算の発達と密接な関係にあったので、これらの制度を担う地方役人・村役人にとっては算法(計算方法)もまた必須知識だったのです。

この資料が伝来した山崎家は村役人、江古田村丸山組の名主をつとめた家です。村政に深く関与した旧家の伝来品にこういった資料が含まれていることはごく自然なことといえます。逆にいえば、資料群の性質を探ることは伝来した家の性格を知るための重要な手がかりとなり得るのです。

(富井)



『算法地方大成』巻之一、検地の解説部分。間竿(検地竿)の入れ方が図解してある。

中野往來

妙正寺川改修記念碑(白鷺3-48)

妙正寺川は、杉並区清水の妙正寺池を水源とし、新宿区下落合で神田川と合流します。区内は白鷺から松が丘まで蛇行しながらの西から東へ流れています。かつては「大川」とよばれたこの川は、沿岸一帯の灌漑用水として広く利用され、川魚がすみ、蜚が飛びかう、清流であったといえます。戦後、急激に宅地化が進み、遊水地帯がなくなり、豪雨のたびに氾濫し、被害をもたらすようになったため、大規模な河川改修が行われました。昭和47年(1972)、改修工事の完了を祝い、妙正寺川改修促進会の有志によって、記念碑が建てられました。記念碑中央に、地域の人々の長年の念願であった「治水」の文字が大きく画かれています。

昭和16年(1941)に鷺宮に越してきた作家の壺井栄が、鷺宮でのようすを著した随筆『鷺宮二十年』で、妙正寺川のことにも触れています。春になると田んぼ道でヨメ菜をつんで、一升瓶でコメ

をつき、ヨメ菜御飯をつくるのがそのころの唯一の御馳走で、戦争が終わってからも春ごとにヨメ菜をつみにいくのが楽しみだったそうです。そして「…ところが、戦後十六年の今日、ヨメ菜の田圃は地ならしされ、あれよあれよという間に何階建てかの団地住宅が建ちならび、なお建てつけられている。なんでも去年から今年にかけて二千何百戸とかの住宅がこの鷺宮にできるのだという。河骨が芽を出し、おはぐろとんぼの飛び交っていた駅前的小川も、いまは護岸工事が施されて、昔をふり返る人もなさそうにあらゆる空地に人家が殖えてゆく…」とあります。

地域の人々とともにあった小川が変貌し、地域の人々を苦しめ、苦勞して治水へと導いた、その顛末が、記念碑に記されています。

(榎木)



事業報告

各種事業経過

2020年10月～2021年9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「描かれ、写された中野」 「おひなさま展」 「中野の遺跡と歴史年表」 「隣組日記と戦時中の暮らし」	10/13～11/22 2/13～3/14 3/9～3/28 7/6～8/31
館 蔵 品 展	「裁縫ひな形」 「新春を寿ぐ～吉祥の美～」 「中野deたぬき」 「『はかる』道具」	11/10～12/19 1/19～2/20 6/1～7/4 9/1～R3.10/31
コ ー ナ ー 展	「オリンピック展」	6/1～7/4
ロビー・ミニ展	「山崎家の名品【前期】」 「地域展示『江古田』」	4/6～4/25 8/3～R3.10/31
夏 休 み 講 座	れきみんサマーフェスタ2021 「ミニはにわ作り」「勾玉作り」「むかしのくらし体験」 「牛乳パックで日時計作り」「歴史民ボトル作り」「はぎれで作る鍋しき」 「ねんどロウソク」「でんでん太鼓」「消しゴムはんこ」「押し絵作り」	7/22～8/31
講 座	哲学堂講座「一から学ぶ哲学堂」 講師：佐藤 厚氏 古文書講座 講師：笠原 綾氏、大友 一雄氏	9/17、R3.10/1 9/25～R3.10/30
公 開 事 業	秋季「山崎家庭園・茶室の公開」 春季「山崎家庭園・茶室の公開」	10/1～11/1 4/20～4/25
そ の 他	小学校総合学習見学 21校	

埋蔵文化財対応

2020年4月～2021年3月

沼袋一丁目33番民有地立会 (4/9, 5/13)	白鷺2丁目29番民有地立会 (7/29)	松が丘2丁目28番民有地試掘 (11/12)
江原町2丁目21番民有地試掘 (4/21)	白鷺2丁目29番民有地立会 (7/29)	・国庫補助
・国庫補助	若宮1丁目10番民有地立会 (8/5)	江原町1丁目21番民有地立会 (11/12)
江原町2丁目21番民有地立会 (4/21)	沼袋1丁目33番民有地立会 (8/7)	松が丘1丁目10番民有地立会 (11/16)
若宮1丁目14番民有地立会 (4/28)	若宮3丁目53番美鳩小学校試掘 (8/7～17)	南台1丁目4番民有地立会 (11/17)
若宮1丁目14番民有地立会 (4/28)	・原因者(中野区)	弥生町6丁目11番民有地立会 (11/17)
本町2丁目27番民有地立会 (5/8, 5/25)	南台3丁目44番南台小学校試掘 (8/7～21)	弥生町6丁目13番民有地立会 (11/17)
江古田2丁目17番民有地立会 (5/11)	・原因者(中野区)	本町5丁目23番民有地立会 (11/26)
江古田2丁目12番民有地試掘 (5/13)	弥生町6丁目9番民有地立会 (8/24)	弥生町4丁目15番民有地立会 (11/27)
・国庫補助	弥生町4丁目15番民有地立会 (8/27)	江古田4丁目9番民有地立会 (11/27)
江古田3丁目3番民有地立会 (5/22)	沼袋1丁目33番民有地立会 (9/23)	白鷺2丁目29番民有地立会 (12/17)
中野6丁目17番民有地立会 (5/27)	江原町1丁目23番民有地立会 (9/24)	弥生町6丁目11番民有地試掘 (1/13)
南台3丁目43番民有地立会 (5/28, 7/1)	江古田2丁目19番民有地立会 (10/7)	・国庫補助
沼袋2丁目18番民有地立会 (5/28)	南台5丁目27番民有地立会 (10/13)	本町2丁目15番民有地立会 (1/22)
弥生町6丁目13番民有地立会 (6/5)	江古田1丁目19番民有地立会 (10/22)	弥生町6丁目11番民有地立会 (2/1)
江原町2丁目24番民有地立会 (6/22)	南台3丁目6番都有地立会 (10/30)	江古田1丁目3番みずのとう公園確認 (3/4)
沼袋1丁目31番鉄道関連工事	本町2丁目17番民有地立会 (10/30)	・国庫補助金
本町2丁目34番民有地立会 (7/14)	松が丘2丁目28番民有地試掘 (11/10)	弥生町5丁目11番水道管工事立会 (3/4)
若宮1丁目16番民有地立会 (7/22)	・国庫補助	弥生町5丁目11番民有地立会 (3/8)
沼袋1丁目33番民有地立会 (7/27)	沼袋1丁目33番民有地立会 (11/10)	本町5丁目36番民有地試掘 (3/11)
松が丘2丁目21番民有地立会 (7/27)	松が丘2丁目28番民有地試掘 (11/11)	・原因者
鷺宮4丁目15番民有地試掘 (7/29)	・国庫補助	弥生町3丁目10番民有地立会 (3/25)
・国庫補助		

寄贈資料一覧

2020年9月～2021年7月 敬称略

資料名	点数	氏名
ひな人形 写真(ひな人形)	一式 2	鈴木 和子
双六	3	安田 友美
ひな人形	一式	谷口 里恵子
ひな人形(大正15年) ひな人形(昭和24年)	一式 一式	幾石 恵子
羽子板	1	中村 芳子
羽子	4	
大和小学校校章	1	

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

資料名	点数	氏名
写真(昭和18年) 腕章	7 1	藤田 喬
ミニチュア道具等	36	花澤 眞一郎
写真(昭和33年)	7	松本 文子

発行年月日 2021年10月1日

山崎記念
編集・発行  中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119